



発行所 東京片貝会  
東京都江東区高橋 5-1-313  
電話 (632) 0156

### 風薫る

## 春の集い (第28回) ご案内

昭和62年5月24日(日)  
東京新潟県人会館にて

楽しかった新年会から、すでに数か月経ちました。お健やかに、お過ごしのことと思います。  
本年も郷里からお客様をお招きして、いろいろ様子を聞きたいものです。また、互いにその後の近況を語り合い、交誼を深めることも嬉しいことです。どうぞ、お友達をお誘い合わせの上、ご参加下さいませ。よう、心よりお待ちしております。

日時 62年5月24日(日) 午後一時(正午より受付)  
会場 東京新潟県人会館(台東区上野一丁目13-6)  
営団地下鉄「湯島」二分(千代田線)、「上野広小路」六分(銀座線)、JR「御徒町」七分  
会費 五〇〇円(料理・果物・飲み物)  
返信は五月二十日必着にて、お願い致します。

### 同級会だより

喜寿の祝いを  
秋祭りに花火を奉納して、みんなの長寿を祝い、健康を祈願しよう。口今計画。果して何発あるか、これからの努力次第。懇親会は永寿荘で、九月十一日に開くことになっている。  
十三同志会

温泉につかって懇親  
信州の名湯として、天下に名高い別所温泉(上田市)へ清遊することになった。  
六月十四・十五日の一泊二日の旅行。同級諸氏の多数の参加を呼びかけている。  
昭六会

### 燦し銀の輝きにも似た

#### 顧問 広井三代次氏逝く

今から十二年前のこと、片貝会が一時中断しそうになったことがある。それを一番心配されたのが広井さんだった。  
丸山貴司さんが有志に呼びかけて相談された時には、青襟荘から真っ先にかけて下さった。その結果、私が会を引受け受けねはないことになってしまった。  
もしあの時に、広井さんの呼びかけがなかったら、今の片貝会は

どうなっていたか。  
広井さんについて語りたことがある。はたらくさんあるが、一番忘れられないことは、この一点である。  
いつも舞台裏で、何くれとなくご支援いただいた。広井さんこそ会の恩人、と言っても言い過ぎではない。毎年の新年会・総会には一度も欠席されたことはなかった。その広井さんが、この新年会に姿を見せられなかった。

風邪をこじらせて、暖かくなるまで静養中とのことであった。三月十三日に有志三名で、伊勢原の東海大附属病院に見舞ったところ酸素吸入器をあてて、臥せておられた。手をしっかりと握って、頑張つて下さい、と励まし申し上げたのに、三日後急逝された。  
大きな柱が、音立てて倒れたような淋しさを覚えずにはおられない。ご冥福をお祈りします。

### 会の動き・人の動き



広井さんの葬儀に参列した片貝会役員

#### 母校を励ます会 役員会

1月11日  
当初企画した五年間が本年くるので、今後の運営について相談。  
この事業は今後も継続する。  
一口千円単位で、広く多くの会員に協力を呼びかける。  
・図書の寄贈が最適である。  
・講師の選定は、広い視野で選ぼう。など話し合った。関係役員八名出席。県人会館にて。

#### 62年新年会

1月25日  
2面参照、新潟県人会館にて  
青襟荘、花の旅 4月12・13日  
3面参照

総会準備の役員会 5月17日  
秀和ビル集會室 予定

本校励ます会の代表佐藤祐一氏は、十七年間活躍されていた東京芝研究所を退かれ、四月一日から神奈川大学の助教に就任。  
工学部応用化学科で後進の指導に当たられることになった。  
一層のご活躍をお祈りします。

母校励ます会の代表佐藤祐一氏は、十七年間活躍されていた東京芝研究所を退かれ、四月一日から神奈川大学の助教に就任。  
工学部応用化学科で後進の指導に当たられることになった。  
一層のご活躍をお祈りします。

卯年の春を

# 楽しく、みんなで新年会

## 1月25日(日) 東京新潟県人会館にて

曇り勝ちながら、時おり晴れ間も見えて、おだやかな冬日和である。

午後一時を少し回ったところで佐藤彦副会長の開会あいさつのおと、勝又会長が、本年も皆さんと力をあわせ、元気にやりたい。会

のために一層のご支援をお願いいたします。皆さんのご発展をお祈りします。……と、新年の所感を述べられた。

### 浄照寺様の乾杯で

いつも出席を欠かされたことのない広井三代次さんが、体調わるく、欠席のため、郷里から遠路出席くださった小林文雄師の首頭で乾杯となった。



私はすでに喜寿を越えました。有徳の先代にならって、町の発展に及ぼすながら尽力したい、と日夜念じている、それを皆さんに訴えたくて、新年会に出席しました。……と、熱く語られた。

### 恩師箕輪先生も

横浜からは箕輪みね先生も出席になり、歓談に、歌に、会場はいつものような熱気溢れる賑わいとなった。

楽しみに、時の経つのも忘れるほどである。

### 福引き楽しく

福引きは、新春恒例の行事である。会員から寄せられた数々の品物は、高価なワイスキーから、珍しい器物や品々がたくさん寄せられた。

### 浄照寺ご住職手書き

の布巾、会長よりの果物、中古カメラ、高級ペンダントなど28氏から目を見張るような物ばかりに、思いがけない大当りに、歓声と拍手がいっせいに湧いた。

楽しいおみやげがきてみんなの顔も綻ぶ。

また会う日まで

何といたってフェナーレのしやがり演奏

と、木遣り唄の大合唱は片貝ならではのもの。場内じびびりき渡って、本年の新年会も幕となった。

またの会う日を楽しみにしつつ散会した。(福引き品の提供者28名のご芳名は省略しましたが、厚くお礼申しあげます)

### 出席者(六八名) 敬称略

- 来賓 小林文雄、箕輪みね
- 会員 ○大正 高桑キイ、佐藤正雄、石上リヤウ、錦織ツタ、相崎尚次、安部盛治、佐藤量八、神林徳次、三重堀繁蔵、安達宗吾、山口富次、安達徳太郎、高橋清雄
- 昭和2〜10 本田政秀、山口ヨシ、日下部敦子、小川茂雄、相崎勇次、小野塚マツ、吉井武二、丸山 春、石黒佐恵太、芋川とし、浅田鉄二、藤田睦子、山口三郎、大内登世、神林健次、黒崎孝造、本田松次、黒崎敬五郎、勝又 功、吉原彦作、大矢幸治、佐藤彦一、芝三四司、芝 五郎、武藤睦子、吉原菊枝、山口武一郎、堀井豊作、小宮良夫、西田善作、森本比夫
- 昭和11〜20 高橋四郎、山口福次、黒崎吉吉、

お願い

## 新名簿にあなたの広告を

五十五年発行された名簿も、その後多数の異動があつて、改訂すべき時がきました。

一年後に創立三十年を迎えますが、来春発行を期して、目下編集中です。

つきましては、経費ご援助を兼ねて、あなたの広告を掲載下さいませよう、ご協力お願い申しあげます。

### 秋の母校を励ます会の講師に

## 大矢三郎氏(大阪)を

大矢さんは町裏の出身。兄弟九人の次男として、幼時から青年時代を片貝で過ごした。

牛乳配達や、新聞配達をして、浅田鉄夫、青木富代、太刀川善蔵、丹治きみ、山田利雄、佐藤敏雄、佐藤道雄、小宮華雄、山口光雄、

○昭和21〜30 山岸慶昭、安達和三、小野塚茂、黒崎 正、佐藤祐一、黒崎 勝、鯉島昭雄

○昭和31〜32 藤塚 悟、諸我時夫、吉井信三、当日左記の五氏からお祝いをいただいた。(敬称略)

小林文雄、箕輪みね、三重堀繁蔵、安達宗吾、安達栄子(前々会長夫人)

ありがとうございました。

ます。

一口、五〇〇〇円

広告文の内容について、特にご希望のある方は、黒崎孝造さんまで原稿をお送り下さい。あまりこみいったものは、その分の経費をご負担いただく場合があります。

送金は振替、又は便宜の方法で九月末日までお願いします。

### 伝統に輝く

## 片貝体育の歴史 出版さる

二年余の苦心の結晶が、今春漸く完成して発刊された。

戦後からのスポーツ活動は勿論戦前のことも載っており、年輩の人達も、懐かしい思い出が呼びおこされることであろう。

スポーツの町として、早くから籠球・バレーなどで近隣を圧してきた、片貝の面目が手に取る如く述べられている。

小・中学校の対外試合、町民運動会、駅伝競走、青壮年の対抗競

走など、あらゆる活動の様子が、時の流れとともに、詳細に記述されており、読み倦むことがない。

こんどの東京片貝会総会々場でも発売されるので、ご一読をおすすめします。

体育協会長は丸山良平氏。本書の編集委員長は吉原芳郎氏。

A5判四三頁、一五〇〇円  
片貝では、農協や支所で求めることができる。

最新の印刷機を駆使して

片貝の情報と文化のセンター

## 吉原印刷株式会社

本社・工場 小千谷市片貝町10367-4  
本電話 長 (0258) 代 (84-2253)  
吉原芳郎 (昭23卒)  
片貝中学校同窓会長

孝は行ないのもと、という信条に基づいて、郷土になされている篤行は、皆さんのよく知るところ。お話は秋の予定。

# 花見の旅 仙境 青巒荘へ

4月12〜13日



なで菊花を捧げてお参りした。

小野塚 茂さんが謝辞を述べて、追悼会を閉じた。

### 楽しく歓談

一息入れて懇親会となる。今回は大阪から大矢三郎氏、又片貝からは松井信子・川上秀子さんが参加されて、いつにない賑やかな会となった。

この数日、身ぶるいするほどの寒さが続いている。しかし都内の桜は、ほぼ散り尽そうとしているが、箱根の山では尚見頃の筈である。それを期待して、湯河原駅に集ったわけだけれども、この寒さでは花見台にいけないような状況ではなかった。そこで、急に青巒荘に直行することになった。

早く到着したので、岩風呂にゆつくりつかって、歓談を楽しんだ。この桜も、すでに葉桜になりかけて、ちらちら散っていた。

### 広井さんを偲んで

五時、全員が大広間に集合。広井顧問の写真の前に、追悼会を開いた。黙祷の後、佐藤正雄さんが先輩として、故人の思い出を語られた。その人となりを偲び、みんな

まず佐藤正雄さんの「男の舞い踊」の至善を、久々に味わう。このあと、歌に、踊りに、歓談に夜の更けるのも忘れて楽しんだ。さぞ、広井さんも地下で喜んでおられたことであろう。その笑顔が、目の前に浮んできた。かくていろいろの思いをこめて本年の旅は終わった。今回で8回目

### 参加者(九名)

- 佐藤正雄、相崎尚次、大矢福次、佐藤量八(日帰り)、安達宗吾、小川茂雄、大矢三郎、三重堀繁蔵、相崎勇次、芝五郎、日下部政子、芋川とし、藤田睦子、小野塚マツ
- 勝又 功、黒崎孝造、相崎美津子、勝三四司、武藤睦子、広川久美子、川上秀子、松井信子、高橋四郎、山口福次、黒崎 正、太刀川善蔵、黒崎 勝、小野塚茂、山田美代治



## 母校を励ます会報告

母校は私達の原点  
ご協力に感謝します  
母校を励ます会報告  
今回の総会で、母校に図書を贈呈すると、当初の五か年計画が一応完了、引き続き継続していきたいと思います。

これまで皆様から寄せられたご協力に対しては、ただ感激のほど

昭和62.1.1(自)	昭和62.4.30
収入 ¥1,786,688	支出 ¥897,247
基金(延)435名 1,674,200	寄贈図書 800,000(4回)
利息 112,488	寄贈演劇 50,000(5回)
	印刷郵便他 47,247
前回は収入	支出(昭和62.1.1~62.4.30)
基金 36名 130,000	印刷 1,850
利息 3,778	郵謝礼 5,000
[現在高889,441]	

- かごいません。母校の大きな反響は前号にてお知らせした通りです。今回の垂れ幕を、黒崎敬五郎氏から揮毫していただきました。立てるは世話役の諸我時夫さん。
- 前回以後(62年1月〜4月)ご寄付いただいた方(36名)〇大正
- 安達栄子(前々会長夫人) (3)
  - 佐藤正雄 (5) 広井三代次 (4)
  - 長谷川セイ (2) 安達徳太郎 (2)
  - 山田政秀 (2)
  - 山田政秀 (2) 小川茂雄 (2)
  - 山田政秀 (2) 小野塚まつ (4)
  - 芝五郎 (3) 日下部政子 (2)
  - 勝又 功 (4) 石黒佐忠太 (2)
  - 黒崎孝造 (3) 黒崎敬五郎 (2)
  - 佐藤彦一 (4) 芝三四司 (3)
  - 黒崎 勇 (4) 吉原菊枝 (4)
  - 武藤睦子 (5) 堀井豊作 (4)
  - 昭和11〜20
  - 高橋四郎 (3) 内海光子 (3)
  - 青木富代 (4) 丹治きみ (5)
  - 近藤ヤウ (2) 小宮幸雄 (3)
  - 山口光雄
  - 昭和21〜30
  - 神林貞俊 嶋田良子
  - 野崎真知子 (2)
  - 昭和31〜
  - 藤塚 悟 (3) 本田孝義
  - 諸我時夫 (3) 吉井信三 (3)
  - 大阪一 大矢三郎 (3)
- (一)内の数字は寄付の回数  
数字のない方は、今回初めて。  
尚これまでに二万円以上いただいた方は、5名増えて55名となった。

## 会員の声 (敬称略)

- 帰山すま(大6)  
いつもお骨折りをいただき、ありがとうございます。片貝便りをなつかしく読みました。  
山崎キイ(大6)  
元気でいますが、出席しても同期の方がおられないので、欠席させていただきます。  
石上リヤウ(大10)  
今度の新年会には、幾年ぶりで、皆様に自分にかかりたく、出席させていただきます。  
石黒ミス(大15)  
会報を楽しみ読ませていただきました。残念ながら、参加できません。ご盛会を祈ります。  
酒井ミヨ(昭2)  
出席を楽しみにしていましたがこちらの老人会と重なりました。役員の方々のお骨折りに感謝しています。  
平沢佐和(昭4)  
ふるさとのお便り、楽しく読ませていただきました。勝又会長はお元氣をどう何よりです。頑張ってください。  
城取八重子(昭8)  
いつも懐しいニュースいっばいの会報をありがとうございます。皆様のご多幸をお祈り申します。  
黒崎 勇(昭8)  
出版界の会合があり失礼します。お年玉に代えてお送り申しあげます。ありがとうございます。  
村田ユキ(昭8)  
昨年は65歳で、火花を見せました。ありがとうございました。
- 広川久美子(昭12) 旧姓佐藤 佐平治祭りのことを会報に載せていただき有り難うございました。父もあの世で、喜んでることと思います。  
山口吉五郎(昭15)  
善母の法要があり、残念ながら欠席します。次回を楽しみに。  
安達敬一(昭15)  
出席できれば、懐しい方にお目にかかれるのかもしれませんが、いつかの機会を期待しながら失礼します  
青木富代(昭17)  
会報編集のご苦労を、感謝して読ませていただいています。久しぶりで出席致します。  
大塚 清(昭29)  
ふるさとの様子を活字にして、話題を提供してお送り下さる皆様大変ご苦労様です。感謝。  
渡辺信子(昭29)  
娘が出席の為、出席できません。次回を楽しみにしています。  
堀井 猛(昭31)  
片貝の一人として頑張っています。会報は何よりの楽しみです。  
山口 武・タミ子(昭32)  
二人とも片貝出身です。故郷の香り高いニュースを、なつかしく楽しんで見えています。  
黒沢あい子(昭36)  
折悪しく子供のサッカーの試合と重なり、出席できません。いつも会報ありがとうございます。  
左記の七氏から、不健康のために、新年会を欠席されるのでご通知をいたしました。丸山フジ、松井平助、大矢修一、渡辺左武郎、水内脩治、氣田登美、本田繁男

ふるさと・は・今

市議選の結果

二十年の長い間、市政で活躍しておられた本田善治氏が引退され、片貝からは左の四氏が当選された。

- 関 広一氏(前)
芝 与三郎氏(前)
安達 稔氏(八島)
小林光紀氏(浄照寺副住職)
立候補者が定数だけにとどまっ

たので、市長と共に無競争で当選がきまつた。

学校と同窓会の動き

中学校創立四十年と小学校秋に式典が行われる。また、記念に新しい校旗の新調が予定されている。具体的な計画は、更にくれから詰められる。
小学校舎の改築は、本年から開始されることになった。四億三

同窓会への入会式

中学校の卒業式に先きだつて、七十一名の生徒の同窓会入会式が行われた。三月三日。
会長吉原芳郎氏の歓迎のあいさつ、生徒代表大矢弘光君の謝辞があった。卒業生達のこれからの活躍を念じて、来賓からも激励のこ

はここの後になる見込み。

東京片貝会々計報告 (自昭和61.4.1 至昭和62.3.31)

Table with financial data: 収入 ¥1,977,095円, 支出 ¥1,977,095円, 繰越金 351,056, 年会費 430,000, etc.

上記の通り報告致します。昭和62.3.31
会計部長 黒崎孝造
副部長 山口武一郎
上記は適正且つ正確であることを認めます。
会計監査 小川茂雄 大矢幸治 高橋四郎

米国留学の安達伸幸君
安達君は八島の出身。長岡高校在学中。
ソニーの国際教育基金、海外派遣に応募、全国多数の中から数回の試験にパスして、昨年八月に渡米した。

レストラン経営の家でホームステイ。元気にハイスクールで勉強している。安達君は長岡高校で、バレーをやっていたが、米国の同校には女子しか部がなく、女子のバレー部で活躍しているとか。
市の美術展にも出品して、入賞した。この七月に帰国の予定で、これを機に、米国からの交換留学生もやってくるそうだ。

中国との友情の輪

話題の主は五十嵐美恵さん。五十嵐さんは三之町に住んでいて片貝の高等科を卒業した。お父さんが満鉄勤務のため、その後満州にゆき、終戦後、親にはぐれる始末となった。死亡したこととなり、戦没者慰霊碑に今もその名が刻まれている。
実家は千葉にあり、両親も元気で、その後、娘の生存が分かり、五十嵐さんも帰国したことがあるという。
これを知って同級会(親和級友会、昭25)では、この秋に五十嵐さんを秋祭りに招待することになった。還暦祝い兼ねて、その費用は一切同級会が負担するとい

町の話題

小千谷市一番の長寿者
三之町の鹿島屋さんの安達カワさんは、本年百一歳で、元気で毎日を過ごしておられる。

ふるさと小包はいかが
小千谷郵便局が取りもちで、物産の小包便を世話している。
四月から五月にかけて、笹だんご、そばなどを受けつけている。
参考までに、笹だんごは送料込みで、30個二六〇〇円、50個四三〇〇円。そはは四人前一八〇〇円など。直接郵便局に問合わせると案内がくる筈。

こはくちよう五百羽飛来
どこから飛んできたのか、北へ帰るこはくちようの大群が、小栗田の雪原へ舞い下ってきた。
三月二十五日は強風が吹き荒れていた。小憩の後、羽の疲れも癒されたか、風のやや静まった頃を見計って、一斉に飛び去っていった。
北海道を経て、シベリアの繁殖地に向かったたのであろう。

ゴルフ場ができる
鴻の巣から坪野一帯にかけて、18ホールの本格的ゴルフ場がいよいよ四月から工事を始める。来年秋には完成の見込み。
第一次会員(二〇万円)は既に満員となり、五月から二次募集も始まるそうだ。

ひとつの提案



いま母校へ、毎年図書を買っていただきますが、どの家にも、子どもの本がある程度ある筈です。これを提供してもらい、取捨選択は係に任せ、母校へ寄贈することにしては如何でしょうか。皆さんのご意見をお聞かせ下さい。又、他によりアイデアがあったらそれも承りたいと思います。よろしく。
大矢常吉(大15)

あとがき

新緑の目にしみる好季節を迎えました。
時の流れとともに、片貝会にもいろいろの動きがありました。会員の皆様の、変ることのない郷土愛がある限り、この会は続けられてゆくことと確信しています。またそうしなければならぬと思っております。
広井さん亡き後、特にこのことを感じています。皆様の一層のご健闘を祈つてやみません。
毎年この季節は、連休が続くため、会報の発行が先送りになりがちで、皆様への案内も遅くなってしまいました。悪しからずご了承下さい。
28回目の総会には、多数の皆様のご出席をお待ち申し上げております。(S)